

2010年10月1日

101001 - WFD2010No.2

プレスリリース**10月1日～31日は「世界食料デー月間」
NGO/NPOと国際機関が連携してさまざまな取り組みを展開**

10月16日は、国連が定めた「世界食料デー」。毎年世界中で、食料の安全保障を求める活動が展開されています。日本では2008年から、国内外で飢餓や食料問題の解決に取り組む国際機関やNGO/NPOが協力し、10月1～31日にかけて「世界食料デー月間～みんなで食べる幸せを」を実施。今年も、世界と日本の食料問題の現状を見つめ、一緒に考え、行動のきっかけを提供するさまざまなイベントが日本全国で行われます。

受け入れがたい飢餓の現状

世界では、一人ひとりに行き渡るだけの十分な食料が生産されています。しかし一方で、2007年から2008年に起こった世界的な食料価格の高騰、さらには世界経済危機の影響で、世界では飢餓人口が急増。2009年には史上最多の10億人に達しました。その後、2008年以降の価格の下落や開発途上国の経済成長によって、2010年には9億2,500万人に減少したと推定されているものの、依然として受け入れがたい数字であることに変わりはありません。飢餓人口の比率が高いサハラ以南アフリカでは、今も3人に1人が栄養不足に陥っています。

飽食日本も無縁ではない

十分にある食料が、公平に分配されていない世界。一方、日本では食料の6割を海外からの輸入に頼りながら、1900万トンもの食料が捨てられています。食料をめぐる要因が国境を越えて互いに影響しあい、複雑に絡み合う今、問題の解決には国や組織を超えた連携が不可欠です。今年の世界食料デーのテーマは「United Against Hunger－飢餓に対して結束する」。さまざまなアクターによる連帯の必要性を、強く呼びかけます。

問題を一緒に考え、行動のきっかけをつくるイベントを開催

私たちの食生活と世界の食料問題はどのようにつながっているのか。問題の解決に向けて私たちができることは。「世界食料デー月間」の実施団体は、まず問題の糸口を探るため、7月から10月にかけて、国内の食料問題や気候変動など、さまざまな切り口から問題を考える連続セミナーを開催してきました。期間中はさらに、飢餓と食料の問題に取り組むさまざまな関係団体による活動が行われます。

「世界食料デー月間」特設サイトでは、連続セミナーのレポートや今後のイベント情報を公開しています。さらに、世界と日本の食に関するデータや、一般の方から募集した「食」に関するコメントを紹介。食料問題を身近に感じ、考え、行動するためのさまざまなきっかけを提供していきます。

「世界食料デー月間」特設サイト <http://www.worldfoodday-japan.net/>

■□■取材・記事掲載のお問い合わせ■□■

(特活)ハンガー・フリー・ワールド 儘田 由香(ままだ・ゆか)

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4-8-13 山商ビル7階

TEL 03-3261-4700 FAX 03-3261-4701 E-MAIL mamada@hungerfree.netイベントについて詳しくは → <http://www.worldfoodday-japan.net/event>